

景気動向調査結果報告書 【やお景況レポート】

2013年 第Ⅲ・四半期(7~9月) VOL. 70

八尾商工会議所
八 尾 市

目 次

【調査実施の概要】	1
【調査結果の総括】	2
1. 製造業の景気動向	5
2. 非製造業の景気動向	9
3. 現状における経営上の課題について	12
4. 経営上の問題点・業界の動向など	14

【 調査実施の概要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996年7月に第1回目の景気動向調査を実施し、今回（2013年9月実施）の調査で70回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員5人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業782社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）518社の合計1,300社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収をFAXで行った。

今回の回収率は、下表に示すとおり、製造業が35.0%、非製造業が31.5%、全体では33.6%である（表1～2参照）。

（注）2013年4～6月期調査より調査方法の変更などにより、2013年1～3月期以前に比べ回収率が大幅に上昇しており、過去との比較においては留意が必要である。

表1. 業種別回答状況

業 種 名	発送数	回答数	回答率
金 属 製 品	199	69	34.7%
機 械 器 具	219	79	36.1%
そ の 他 の 製 造 業	364	126	34.6%
製造業計	782	274	35.0%
建 設 業	145	43	29.7%
卸 売 業	88	41	46.6%
小 売 業	83	21	25.3%
サ ー ビ ス 業	202	58	28.7%
非製造業計	518	163	31.5%
合 計	1,300	437	33.6%

表2. 規模別回答状況

規模別	製 造 業			非 製 造 業			全 体		
	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率
5～19人	472	147	31.1%	367	110	30.0%	839	257	30.6%
20～49人	189	71	37.6%	79	29	36.7%	268	100	37.3%
50～99人	66	27	40.9%	31	11	35.5%	97	38	39.2%
100～299人	35	18	51.4%	15	5	33.3%	50	23	46.0%
300人以上	20	11	55.0%	26	8	30.8%	46	19	41.3%
合 計	782	274	35.0%	518	163	31.5%	1,300	437	33.6%

【調査結果の総括】～八尾市の景気回復は着実に進展～

八尾市の業況判断DI¹をみると、全産業で▲6と、前回調査より6ポイント改善し、景気が回復傾向にあることが明確となった（6月=▲12→9月=▲6）。業種別にみると、製造業は▲10と、前回調査より6ポイントの改善となり、2013年1～3月期以降の停滞的な局面から脱する動きがみられる。製造業を詳細にみると、金属製品、機械器具、その他の製造業のすべてで改善傾向となった。同様に、非製造業も前回調査より7ポイント改善した（6月=▲7→9月=±0）。非製造業分野をみると、6月調査で大幅改善した小売業が悪化に転じており（3月=▲44→6月=±0→9月=▲15）、「アベノミクス」による株価上昇やそれに伴う消費者マインドの改善などが足元一服したことが影響していると考えられるものの、建設業、卸売業、サービス業では改善がみられた（図1）。

図1. 業種別天気図(景気水準)

	前回		今回		天気図 前回比較
	2013年4～6月期		2013年7～9月期		
全産業		<▲12>		<▲6>	
製造業		<▲16>		<▲10>	
金属製品		<▲16>		<▲10>	
機械器具		<▲12>		<▲3>	
その他の製造業		<▲17>		<▲15>	
非製造業		<▲7>		<±0>	
建設業		<8>		<15>	
卸売業		<▲22>		<▲9>	
小売業		<±0>		<▲15>	
サービス業		<▲10>		<±0>	

(注) <>内は業況判断DI。景況天気図で示した景況判断は、業況判断DI値によって判定。本設問は2012年4～6月期調査より開始しており、景況判断は暫定的に、DI値がプラス10以上であれば晴れ☀、0～9は薄日☁、▲10～▲11は曇り☁、▲20～▲11は小雨🌧、▲21以下は雨🌧とした。図表における前回調査との比較の矢印マークは、景況天気図に基づくものであり、👆が好転、👉が横ばい、👇が悪化を示す。

¹ DIは、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断DI」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断DI」以外の項目（「生産額」、「出荷額」など）は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「▲」と表している。

八尾市の景気動向を、日銀短観²（2013年9月調査）における全国および近畿の業況判断DIと比較してみると、全体としては、全国、近畿並みのペースで景況感が改善している。全国の全産業の業況判断DIは2となり、前回調査（2013年6月）に比べて4ポイント改善（6月=▲2→9月=2）、近畿地区の全産業の業況判断DIも前回調査より4ポイント改善（6月=▲6→9月=▲2）であった。八尾市では、これまで非製造業の回復が早いペースで進む傍ら、製造業は2013年1～3月期以降改善ペースのもたつきがみられていた。全国、近畿ではすでに2013年4～6月期以降改善傾向に転じており、これにやや遅れるかたちとはなったが、今回の調査で製造業においても好転の動きがみられたことで、八尾市の景気改善に拮抗りが出てきたといえよう（図2～4）。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

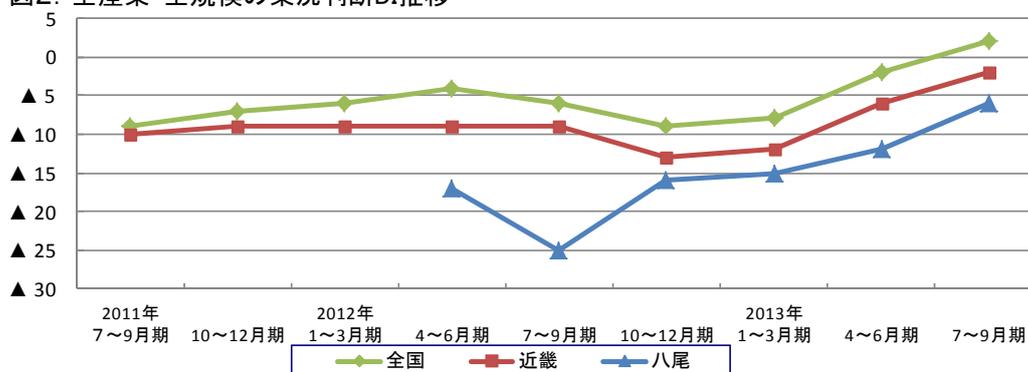


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

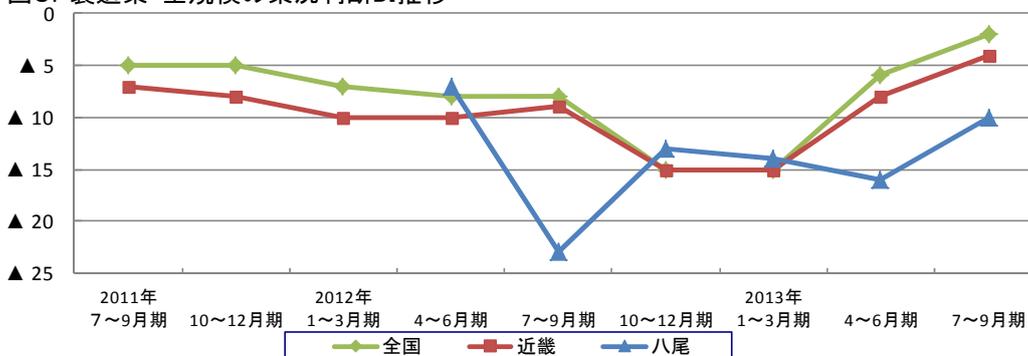
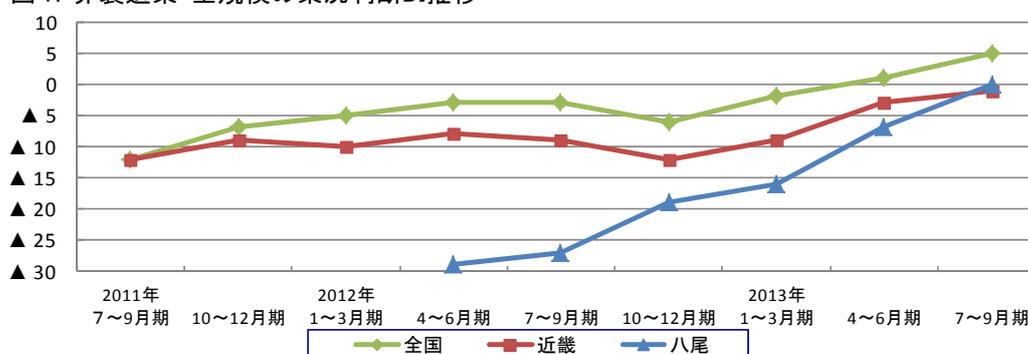


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



² 日銀短観は日本銀行「全国短期経済観測調査」の略。

景気の方角感を生産額などのD I（前年同期比）の推移で確認すると、製造業では生産額が依然として低迷しているものの製品販売額のマイナス幅が大きく縮小し、値下げ圧力が緩和していることがみてとれる。もっとも、設備投資については、設備投資額D Iがマイナス水準にとどまり低調である。非製造業では売上額のマイナス幅が大きく縮小し、事業環境は持ち直しているが、設備投資についてはなお慎重である（図5～6）。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

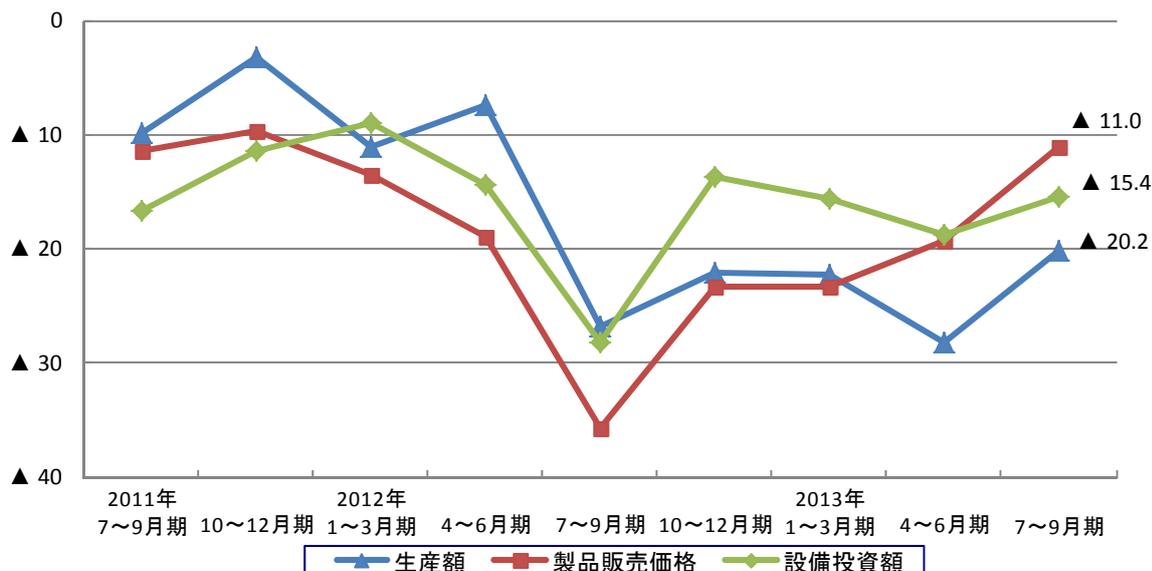
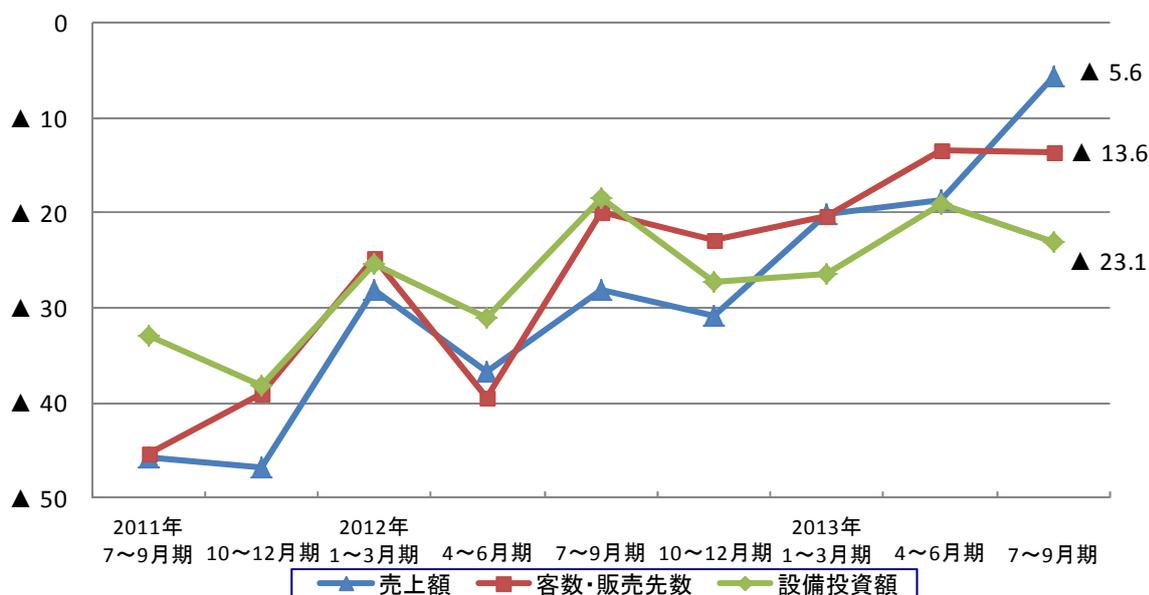


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



(注)「前年同期比」DIは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



曇り

(今回)



【生産額】

製造業の2013年7～9月期における生産額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲11.5と、D Iはマイナス（減少超）が続くが、マイナス幅は縮小し、厳しさは残るもののその程度は和らいでいる（前々回▲23.5→前回▲23.2→今回▲11.5）。業種別の内訳をみると、すべての業種がマイナスであった。

表3. 生産額(前期比)

業種	当期の生産額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金属製品	68	20.6	45.6	33.8	▲ 13.2	▲ 29.2
機械器具	79	19.0	51.9	29.1	▲ 10.1	▲ 28.0
その他の製造業	124	20.2	48.3	31.5	▲ 11.3	▲ 16.3
製造業計	271	19.9	48.7	31.4	▲ 11.5	▲ 23.2

前年同期と比べた生産額D Iは▲20.2と、引き続きマイナスであった（前々回▲22.2→前回▲28.1→今回▲20.2）。

表4. 生産額(前年同期比)

業種	当期の生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金属製品	69	21.7	36.3	42.0	▲ 20.3	▲ 31.4
機械器具	79	17.7	39.3	43.0	▲ 25.3	▲ 28.6
その他の製造業	124	19.4	44.3	36.3	▲ 16.9	▲ 26.0
製造業計	272	19.5	40.8	39.7	▲ 20.2	▲ 28.1

【出荷額】

7～9月期の出荷額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲10.8と、マイナス幅が縮小した（前々回▲21.3→前回▲23.7→今回▲10.8）。業種別の内訳をみると、すべての業種において、D Iの水準はマイナスが続いた。

表5. 出荷額

業種	当期の出荷額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金属製品	68	22.1	42.6	35.3	▲ 13.2	▲ 27.7
機械器具	78	17.9	52.6	29.5	▲ 11.6	▲ 29.6
その他の製造業	123	22.0	47.1	30.9	▲ 8.9	▲ 17.3
製造業計	269	20.8	47.6	31.6	▲ 10.8	▲ 23.7

【 製品在庫 】

7～9月期の製品在庫D I（前期比、「不足」－「過剰」）は▲11.1と、依然として在庫調整圧力は残る（前々回▲6.4→前回▲17.5→今回▲11.1）。業種別の内訳をみると、すべての業種でマイナスとなったが、金属製品でマイナス幅が大きく縮小するなど、在庫調整圧力緩和に向かう動きが一部で見られる。

表6. 製品在庫

業 種	当期の製品在庫は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		不足	適正	過剰		
金 属 製 品	63	6.3	77.8	15.9	▲ 9.6	▲ 27.0
機 械 器 具	75	5.3	81.4	13.3	▲ 8.0	▲ 14.5
その他の製造業	123	1.6	83.0	15.4	▲ 13.8	▲ 14.3
製造業計	261	3.8	81.3	14.9	▲ 11.1	▲ 17.5

【 原材料仕入価格 】

7～9月期の原材料仕入価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は44.1と、値上超が続いている（前々回35.8→前回45.2→今回44.1）。業種別の内訳をみると、金属製品、機械器具、その他の製造業ともにプラスが続いた。

表7. 原材料仕入価格

業 種	当期の原材料仕入価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	68	36.8	63.2	0.0	36.8	46.4
機 械 器 具	77	32.5	66.2	1.3	31.2	28.8
その他の製造業	123	56.9	42.3	0.8	56.1	55.4
製造業計	268	44.8	54.5	0.7	44.1	45.2

【 製品販売価格 】

7～9月期の製品販売価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は▲8.5と、マイナス（値下超）が続き値下げ圧力は残存している（前々回▲19.2→前回▲12.0→今回▲8.5）。業種別の内訳をみると、その他の製造業ではマイナス幅の縮小がみられるなど、原材料仕入価格が上昇しているもとで値下げ圧力への抵抗も一部で強くなっているとみられる。

表8. 製品販売価格(前期比)

業 種	当期の製品販売価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	68	2.9	82.4	14.7	▲ 11.8	▲ 18.0
機 械 器 具	79	1.3	79.7	19.0	▲ 17.7	▲ 10.8
その他の製造業	125	9.6	80.0	10.4	▲ 0.8	▲ 9.1
製造業計	272	5.5	80.5	14.0	▲ 8.5	▲ 12.0

前年同期と比べた製品販売価格D Iも▲11.0と、引き続きマイナスであり値下げ圧力は残存しているが、値下超幅は大きく縮小した（前々回▲23.2→前回▲19.2→今回▲11.0）。

表9. 製品販売価格（前年同期比）

業 種	当期の製品販売価格は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	68	10.3	70.6	19.1	▲ 8.8	▲ 25.3
機 械 器 具	79	1.3	74.6	24.1	▲ 22.8	▲ 24.1
その他の製造業	125	7.2	80.8	12.0	▲ 4.8	▲ 12.4
製造業計	272	6.3	76.4	17.3	▲ 11.0	▲ 19.2

【 採算状況 】

7～9月期の採算状況D I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲25.3と、悪化傾向である（前々回▲35.1→前回▲32.7→今回▲25.3）。業種別の内訳をみても、引き続きすべての業種でマイナスであった。

表10. 採算状況

業 種	当期の採算状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	68	11.8	54.4	33.8	▲ 22.0	▲ 32.0
機 械 器 具	79	7.6	58.2	34.2	▲ 26.6	▲ 29.2
その他の製造業	126	7.9	58.0	34.1	▲ 26.2	▲ 35.5
製造業計	273	8.8	57.1	34.1	▲ 25.3	▲ 32.7

【 資金繰り 】

7～9月期の資金繰りD I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲11.5と、資金繰りは厳しい状況が続いている（前々回▲18.4→前回▲17.7→今回▲11.5）。業種別の内訳をみると、機械器具が▲7.6、その他の製造業が▲8.8と、悪化超幅が縮小した一方、金属製品は▲20.9と悪化超幅が拡大した。

表11. 資金繰り

業 種	当期の資金繰りは前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	67	7.5	64.1	28.4	▲ 20.9	▲ 15.3
機 械 器 具	78	10.3	71.8	17.9	▲ 7.6	▲ 15.8
その他の製造業	126	6.3	78.6	15.1	▲ 8.8	▲ 20.3
製造業計	271	7.7	73.1	19.2	▲ 11.5	▲ 17.7

【 受注状況 】

7～9月期の受注状況D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲9.2と、減少超が続いているもののマイナス幅自体は大きく縮小し、受注環境は厳しさが和らいできている（前々回▲31.4→前回▲30.1→今回▲9.2）。業種別の内訳をみると、すべての業種でマイナス幅の大きな縮小がみられた。

表12. 受注状況

業 種	当期の受注状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	69	26.1	39.1	34.8	▲ 8.7	▲ 32.4
機 械 器 具	79	19.0	55.7	25.3	▲ 6.3	▲ 30.4
その他の製造業	126	15.9	57.1	27.0	▲ 11.1	▲ 28.4
製造業計	274	19.3	52.2	28.5	▲ 9.2	▲ 30.1

【 設備投資額 】

7～9月期の設備投資額D I（前年同期比、「増加」－「減少」）は▲15.4と、設備投資には依然として慎重である（前々回▲15.6→前回▲18.7→今回▲15.4）。業種別の内訳をみると、金属製品ではマイナス幅が大きく縮小し、下げ止まりに向けた動きも一部にはみられるものの、水準としては、機械器具やその他の製造業とともにマイナスにとどまっている。

表13. 設備投資額

業 種	当期の設備投資額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	66	16.7	59.1	24.2	▲ 7.5	▲ 24.6
機 械 器 具	75	12.0	50.7	37.3	▲ 25.3	▲ 26.5
その他の製造業	120	11.7	63.3	25.0	▲ 13.3	▲ 10.0
製造業計	261	13.0	58.6	28.4	▲ 15.4	▲ 18.7

【 向こう3カ月の景況 】

7～9月期における向こう3カ月の景況判断D I（「好転」－「悪化」）は▲0.8と、景気の先行きに対する悲観的な見方は大きく後退している（前々回▲4.6→前回▲12.7→今回▲0.8）。業種別の内訳をみると、機械器具やその他の製造業はマイナスが続いた一方、金属製品はプラスに転じた。

表14. 向こう3カ月の景況

業 種	向こう3カ月の景況					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	68	27.9	57.4	14.7	13.2	▲ 12.7
機 械 器 具	78	24.4	48.7	26.9	▲ 2.5	▲ 8.4
その他の製造業	124	17.7	57.3	25.0	▲ 7.3	▲ 15.6
製造業計	270	22.2	54.8	23.0	▲ 0.8	▲ 12.7

2. 非製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



薄日

(今回)



建設業

景況天気図は

(前回)



晴れ

(今回)



7～9月期の状況を各種DI（前期比）で見ると、受注単価はマイナス幅が大きく縮小し値下げ圧力への抵抗は強まっているものの、資材仕入価格や労務費はプラス（上昇超）とコストが上昇する傾向にあり、採算状況はマイナス（悪化超）と厳しさが残る。もっとも工事引合件数はプラス（増加超）が続いていることもあって、受注状況のマイナス幅は大きく縮小している。このようなもとの、売上額がプラスに転じた。向こう3カ月の景況は引き続きプラスで、一段の好転が見込まれている。

前年同期比DIをみると、設備投資額DIは引き続きマイナスで、投資には慎重であることがうかがえる。

表15. 建設業の景気動向

景気動向指標	回答数	構成比(%)			DI	前回DI	
		増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剩 値下 悪化			
前期比	売上額	43	23.3	58.1	18.6	4.7	▲ 9.3
	資材仕入価格	43	51.2	48.8	0.0	51.2	36.3
	労務費	43	32.6	65.1	2.3	30.3	22.8
	工事引合件数	42	28.6	47.6	23.8	4.8	6.8
	受注単価	43	14.0	67.4	18.6	▲ 4.6	▲ 18.2
	採算状況	43	14.0	53.4	32.6	▲ 18.6	▲ 32.5
	資金繰り	43	11.6	74.4	14.0	▲ 2.4	▲ 13.6
	受注状況	42	19.0	59.6	21.4	▲ 2.4	▲ 11.4
向こう3カ月の景況	43	32.6	51.1	16.3	16.3	9.1	
前同期年比	売上額	43	34.9	39.5	25.6	9.3	±0
	受注状況	43	25.6	48.8	25.6	±0	▲ 4.5
	設備投資額	41	9.8	63.4	26.8	▲ 17.0	▲ 13.9

【卸売業】

景況天気図は

(前回)



(今回)

曇り



7～9月期を前期と比べると、売上額、販売先数、客単価の各DIはマイナス（減少超、下落超）が続き、低迷している。商品仕入価格DIがプラス（値上超）で推移するなか、商品販売価格がプラス（値上超）に転じ、価格転嫁の動きに進展がみられる。もっとも、採算状況や粗利益率はマイナスと、事業環境は依然として厳しく、向こう3カ月の景況はマイナスと悪化を見込んでいる。

前年同期との比較では、売上額、販売先数、設備投資額の各DIともにマイナス（減少超）である。

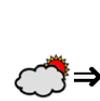
表16. 卸売業の景気動向

景気動向指標	回答数	構成比(%)			DI	前回DI	
		増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剩 値下 悪化			
前期比	売上額	41	19.5	48.8	31.7	▲ 12.2	▲ 25.0
	販売先数・客数	41	12.2	61.0	26.8	▲ 14.6	▲ 11.1
	客単価	40	10.0	60.0	30.0	▲ 20.0	▲ 22.2
	商品仕入価格	40	55.0	45.0	0.0	55.0	36.1
	商品在庫	39	2.6	74.3	23.1	▲ 20.5	▲ 16.2
	商品販売価格	41	22.0	68.2	9.8	12.2	▲ 2.7
	採算状況	41	2.4	48.8	48.8	▲ 46.4	▲ 29.7
	資金繰り	41	4.9	73.1	22.0	▲ 17.1	▲ 10.8
	粗利益率	41	9.8	39.0	51.2	▲ 41.4	▲ 38.8
	向こう3カ月の景況	41	14.6	51.3	34.1	▲ 19.5	▲ 32.4
前年同期比	売上額	41	26.8	36.6	36.6	▲ 9.8	▲ 13.9
	販売先数・客数	41	14.6	51.3	34.1	▲ 19.5	▲ 11.5
	設備投資額	37	8.1	51.4	40.5	▲ 32.4	▲ 23.6

【小売業】

景況天気図は

(前回)



小雨

(今回)



前期と比べた7～9月期の各DIの状況を見ると、売上額はマイナス（減少超）であり依然として事業を取り巻く状況は厳しさが残存しているが、仕入価格上昇傾向にあるなかで、商品販売価格がプラスに転じ（値上超）、価格転嫁に踏み切る動きがみられる。このもとで、客単価や採算状況は、水準は依然としてマイナス（悪化超）にとどまっているものの、マイナス幅は大きく縮小しており、厳しさは和らいでいる。もっとも、向こう3カ月の景況はマイナスと悪化見込みである。

前年同期との比較では、売上額、販売先数、設備投資額ともにマイナス（減少超）である。

表17. 小売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期 比	売上額	21	23.8	33.3	42.9	▲ 19.1	▲ 30.0
	販売先数・客数	21	19.0	42.9	38.1	▲ 19.1	▲ 20.0
	客単価	21	14.3	61.9	23.8	▲ 9.5	▲ 50.0
	商品仕入価格	21	71.4	28.6	0.0	71.4	55.0
	商品在庫	20	10.0	90.0	0.0	10.0	▲ 10.0
	商品販売価格	21	14.3	76.2	9.5	4.8	▲ 20.0
	採算状況	21	19.0	42.9	38.1	▲ 19.1	▲ 50.0
	資金繰り	21	0.0	81.0	19.0	▲ 19.0	▲ 26.3
	粗利益率	20	15.0	35.0	50.0	▲ 35.0	▲ 55.0
	向こう3カ月の景況	20	5.0	60.0	35.0	▲ 30.0	▲ 15.0
前同期 年比	売上額	21	33.3	19.1	47.6	▲ 14.3	▲ 40.0
	販売先数・客数	21	23.8	28.6	47.6	▲ 23.8	▲ 20.0
	設備投資額	21	9.5	52.4	38.1	▲ 28.6	▲ 21.0

サービス業

景況天気図は

薄日

(前回)

(今回)



7～9月期を前期と比べると、DIは売上額、客数、客単価でマイナス（下落超・減少超）が続き厳しい状況であるが、売上額は減少超幅が大きく縮小し、厳しさは和らいでいる。もともと、採算状況や粗利益率は悪化超が続き、向こう3カ月の景況も悪化見込みである。

前年同期との対比では、売上額、客数、設備投資額の各DIで引き続きマイナス（減少超）であった。

表18. サービス業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期 比	売上額	57	19.3	52.6	28.1	▲ 8.8	▲ 23.1
	客数	57	14.0	52.7	33.3	▲ 19.3	▲ 13.4
	客単価	57	12.3	57.9	29.8	▲ 17.5	▲ 19.2
	採算状況	57	10.5	54.4	35.1	▲ 24.6	▲ 27.5
	資金繰り	57	12.3	63.1	24.6	▲ 12.3	▲ 9.8
	粗利益率	56	8.9	51.8	39.3	▲ 30.4	▲ 28.0
	向こう3カ月の景況	57	12.3	47.3	40.4	▲ 28.1	▲ 27.4
前同期 年比	売上額	57	24.6	40.3	35.1	▲ 10.5	▲ 30.0
	客数	57	19.3	45.6	35.1	▲ 15.8	▲ 20.0
	設備投資額	57	14.0	52.7	33.3	▲ 19.3	▲ 20.0

3. 経営上の課題について

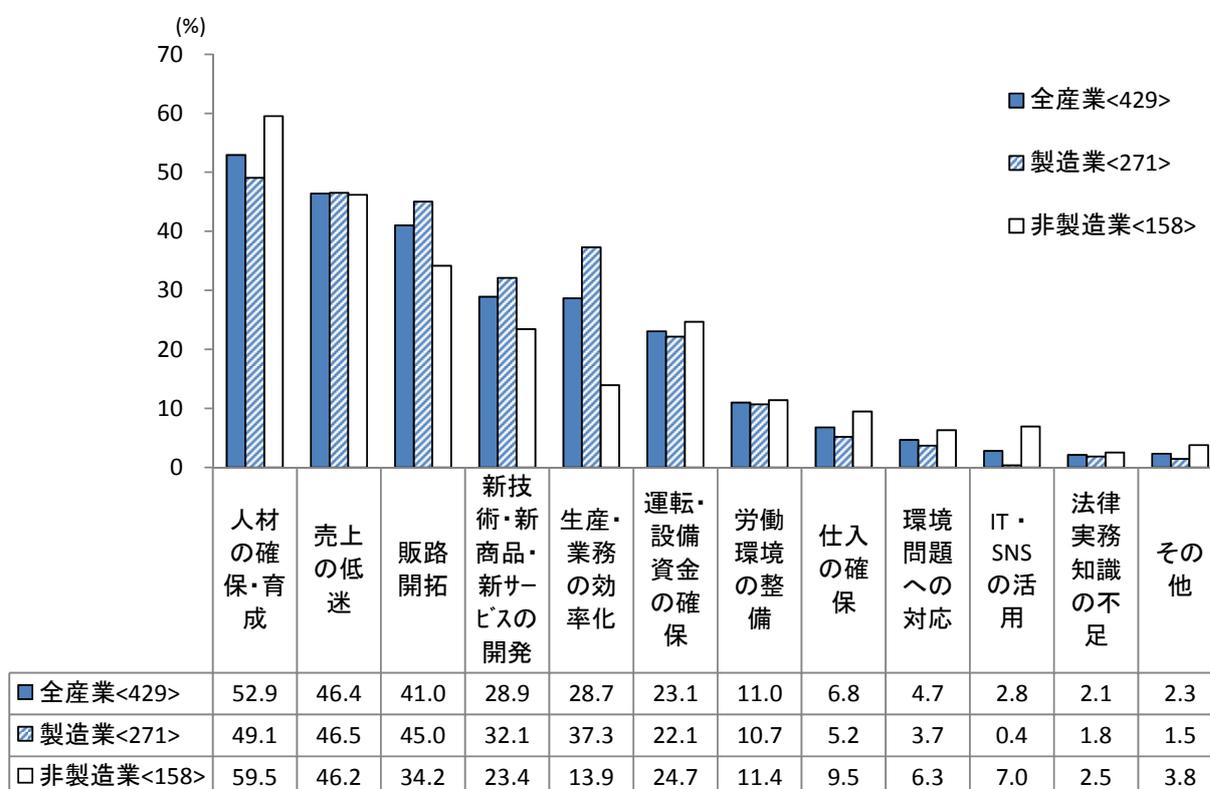
今回の調査では現状における経営上の課題について調査した。

回答事業所全体では、経営上の課題として最も注目されているのは「人材の確保・育成」(52.9%)であり、次いで「売上の低迷」(46.4%)、「販路開拓」(41.0%)であった。

業種別にみても、製造業、非製造業ともに、上位項目は全体と同じであった。製造業では、「人材の確保・育成」(49.1%)、「売上の低迷」(46.5%)、「販路開拓」(45.0%)の他には、「生産・業務の効率化」(37.3%)、「新技術・新商品・新サービスの開発」(32.1%)も課題として認識している企業が相当みられる。非製造業では、「人材の確保・育成」(59.5%)、「売上の低迷」(46.2%)、「販路開拓」(34.2%)の他には、「運転・設備資金の確保」(24.7%)、「新技術・新商品・新サービスの開発」(23.4%)が相当数みられた(図7)。

従業員規模別にみると、規模の大小に関わらず、「人材の確保・育成」、「売上の低迷」、「販路開拓」が上位に挙げられている。このなかで、規模が大きい企業ほど「新技術・新商品・新サービスの開発」、「生産・業務の効率化」も課題として挙げる企業が多くなっている(図8)。

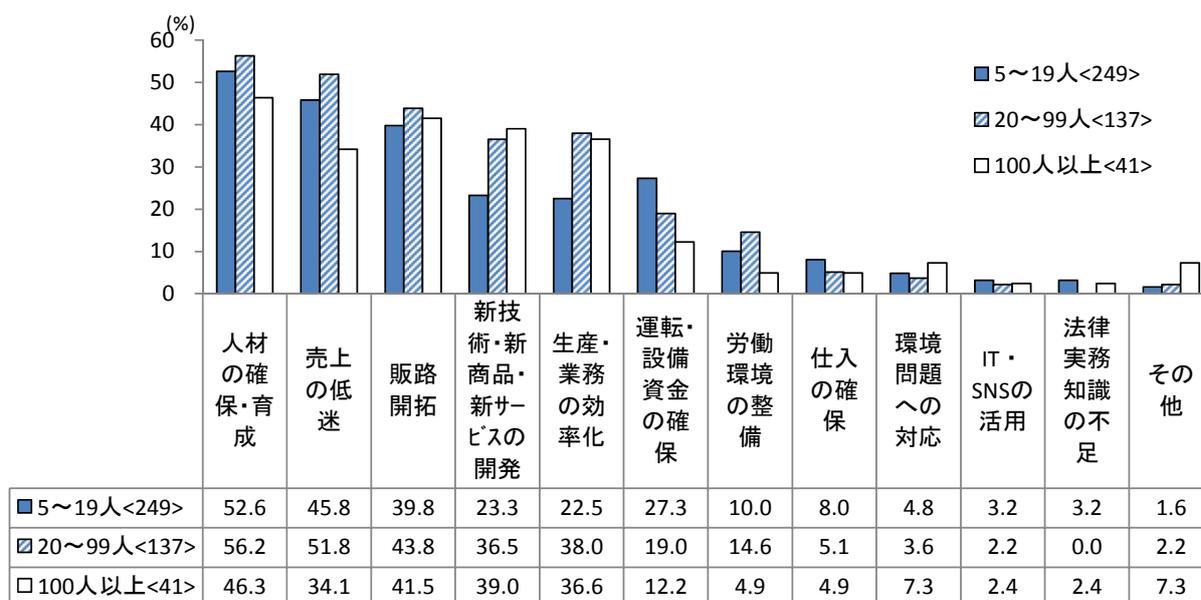
図7. 現状における経営上の課題(業種別)



(注)< >内は回答企業数。

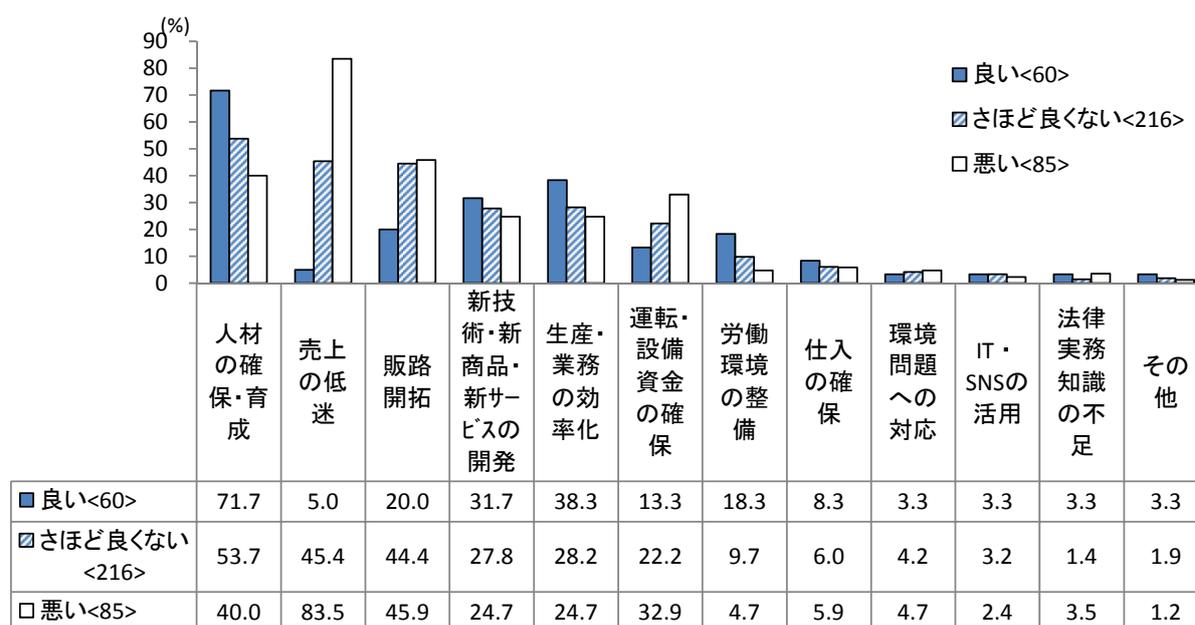
業況別にみると、業況が「良い」とする企業では「人材の確保・育成」(71.7%)が最も多く挙げられ、次いで「生産・業務の効率化」(38.3%)、「新技術・新商品・新サービスの開発」(31.7%)など将来への投資に向けた課題への関心が高い。他方、業況が「悪い」企業では、「売上の低迷」(83.5%)、「販路開拓」(45.9%)、「運転・設備資金の確保」(32.9%)といった資金面・収益面の課題が先決となっており、「人材の確保・育成」(40.0%)や「新技術・新商品・新サービスの開発」(24.7%)は業況が「良い」とする企業よりは割合が少ない(図9)。

図8. 現状における経営上の課題(企業規模別)



(注)< >内は回答企業数。

図9. 現状における経営上の課題(業況別)



(注)< >内は回答企業数。

4. 経営上の問題点・業界の動向など

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
製造	A	資金の確保は、銀行の協力により何とかがんばれる状況ですが、人材はなかなかそういう訳にはいきません。消費税もはっきりとしない状況なので動きが悪いです。業界全体が上向きになるのはまだ先の様です。よりよい人材の確保が当面の課題です。物づくりは、人づくりだと考えております。よりよい商品を作るには人を育てる事が重要だとつくづく思っております。
製造	A	若年層を充実させたいが、甘い考え方が多く製造には不向きが多い。売上、販路に関しては、大手の値引圧力が強く、まねする中小企業も多く、意味なくしての社会人が多い。自社利益の確保の為に手段選ばずというところか。
製造	B	職人が育たない。
製造	A	前年度迄の赤字の補填で後向きの経営になっている。横ばいの項目もやや横ばい。
製造	A	国内生産の限界を感じます。海外へ・・・行くべきか？
製造	A	自社製品の製造、販売が100%であり、常に新製品開発に努力しています。輸入品も当社が設計し、金型代も当社が負担して海外で生産しコンテナ単位で輸入し販売しております。
製造	A	短納期でコスト up。売上確保出来ても採算が悪くなった。
製造	C	月によって売上の増減がはげしいので、適正な人材確保が難しく、各部署の次のリーダー育成が急務である。
製造	A	日本産のすべてを、国内でまた生産出来る様、円安をもっと進めるべき。海外への技術移転、支援を止めるべき。TPPをするなら尚更かと思います。
製造	B	日本の製造業は、ますます厳しい環境になっていくので、更なる競争力の確保が必要である。
製造	A	リーマンショック後の借入の返済。
製造	A	高齢者問題や技術の継承等があります。景気にしても必ず上昇という状況が見えてこないで、思いきった設備投資が出来ません。
製造	A	仕入価格・電気料金が上がり、資金の確保がとても苦しい。
製造	A	長期の売上の低迷による資金の枯渇のため、設備の更新や人材の確保などあらゆる活動に窮している。
製造	C	横ばい状況が1～2年は続く予測、確かなお客さんの販路開拓が課題。
製造	B	アベノミクスの実感が中小企業にない。
製造	A	既存の得意先の売上は横ばいのまま。新製品の開発により売上が見込める所まできたが、さらに新規を増やしたい。

業種	規模	コメント内容
製造	B	原材料の仕入価格は上がりっぱなしのうえ、光熱費も上がり生産コストは増えるのに、納価がなかなか上がらない。企業努力にも限界がある。
製造	A	原材料の値上がりが相次いでいるが、ユーザーへは転嫁しきれないし、タイムラグもある。
製造	A	現状では従来のお客様では経営が成り立って行きませんので、何か自社商品の開発をしたいのですが、売上も値引等で減少していますので、資金確保をどうしたら良いかと日々頭を悩めています。何か良いアドバイスありますでしょうか？
製造	A	社員の技術の向上に力を入れる事。
製造	A	弊社はアベノミクスの効果は全くありません。
製造	A	まわりの製造業限定ですが、中小零細企業で現況良くなったというところはないです。上場企業のアジア地域での現地調達、現地生産体制は着々と進んでいるようで、国内の空洞化が進んでいるのではないのでしょうか？
製造	A	良い人材を確保するためには、労働に見合う対価を上げる必要があるが、元請メーカーは逆に加工賃を低くおさえようとしている。
製造	B	人材を確保すれば、すべてが向上する。売上も増加。
製造	A	若い人材の確保・育成が必要。年齢層が高いので、スピードに欠ける。
製造	B	若者の人材不足。
製造	B	オリンピック景気に期待します。
製造	E	スピードをもって対応する。
製造	A	今後、八尾市中小企業サポートセンター様の支援を受けれるように勉強して相談にうかがいたいと思います。
製造	A	新製品の開発と新規需要家の開拓が順調に進み、本年度11月以降より業績が回復し、来年度から再来年度に掛けて経営が安定するものと考えています。しかしながらリーマンショックと東日本大震災時における累積の負債があり、現状を維持させるのに苦慮しています。10月には融資をお願いする予定にしております。
製造	A	材料費の値上り。工賃（加工費）横ばい、人材確保と社員教育。
製造	A	社員の高年齢化に伴う、体調管理不足、忙中、業務の人材不足に伴う、効率低下。
製造	A	年間通せば普通ですが、仕事がある時とない時の差がとてもあります。若い人を育てたいですけど、人材を確保出来ない。
建設	A	9月末迄は消費税のかけ込み契約が出てくるかも？でも見積り倒れかも？忙しいだけか？
建設	A	銀行の借入資金は毎月返済が進むが、新規借入が仲々進まない為、毎月の運転資金に困っている。

業種	規模	コメント内容
卸・小売	A	商品仕入高になっても売る方には値上げはできませんね。永年地元で商売をさせてもらっていますが、地場の建築業者は段々と弱く、力が無くなっている様に思いますね。当社もですがね。しかし自社でがんばるしかないですよ（新商品を考えています、楽しみです）。
卸・小売	B	電子決済が増える事。手形発行された方が良い。回す為。銀行の都合で合理的に値引きをされる。
卸・小売	A	売上の低迷もなんとかと思っています。
卸・小売	A	新聞やテレビでは景気が良くなったと言っておりますが、アベノミクスになってからは一向に良くなり悪くなって来ました。一日も早く景気が回復する様願っています。
卸・小売	B	弊社は輸入仕入による卸売業の為、為替変動による大幅な円安は経営基盤を崩壊しかねない現状であり、一日も早い安定した円価格になる事を願っております。
卸・小売	A	この業界はメーカー、大手特約店と小規模販売店との公正な競争環境という点では非常に遅れており、旧態依然としており、理不尽な商慣習がまかり通っています。
卸・小売	E	26年4月以降、消費税アップに伴う反落が予測される中、3年前の東日本大震災影響による初回車検対象の減少が重なり、厳しくなる見通し。10-3月期において体制・体づくりが課題。
卸・小売	B	原料や経費（光熱費・人件費）が増加。経営を圧迫。
卸・小売	A	7、8月は猛暑だったせいか、農業生産（植物）だけが、売上から遠のき、水不足も心配され全国の被害も重なり、ダメージを受けた気がする。何か解決策はないものか・・・
卸・小売	A	横のつながりを強化したいです。
卸・小売	B	零細企業には、大企業と同じ法律の適用は間違い。
サービス	A	消費税8%といってるが心配。衣食住には消費税は5%のままで！！小企業に対し銀行の対応は悪い。
サービス	E	尚一層個性を発揮して行くこと。
サービス	A	人手不足になりつつある。
サービス	A	個人美容室における人材確保が不可能に近くなってる。
サービス	A	人材の確保・育成+売上を上げ、お客様への信用を得られる様に努力する事。
サービス	A	本当のところは景気の良し悪しは、最低もう半年先を見てみないと分からない。
サービス	A	新メニュー検討中です。
サービス	A	八尾だけでもどれだけ大手塾が進出してきましたか。教育に対しては、保護者は自分のところの子供はみんな上位の高校へ入れたいと思い、費用が高くても大手塾へ行き、私のところのような個人塾は駄目です。

業種	規模	コメント内容
サービス	A	我が業界は全て人材の確保・育成に尽きる。
サービス	A	昨年10月から始まった、任意保険事故率（割引）の見直しにより、保険事故の入庫率が減ったのと、景気低迷による、お客様の修理の手控えなど。
サービス	B	この時期に納品先（大手の電子部品メーカー）は値下げを強引に言うてくる。こちらは、逆に値上げをしたいくらいなのに、利益の確保ができないので困ります。

※規模

A=5～19人、B=20～49人、C=50～99人、D=100～299人、E=300人以上

※コメントは、できるだけ原文のまま掲載していますが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合があります。また、調査を実施した2013年9月時点での表現となっています。

 **八尾商工会議所**

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181
<http://www.yaocci.or.jp>

 **八尾市** 経済環境部産業政策課

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845
八尾商工会議所会館内
<http://www.city.yao.osaka.jp>